

世田谷区立千歳小学校
学校関係者評価委員各位

学校関係者評価委員会事務局

令和7年度 世田谷区立千歳小学校 自己評価報告書

学校関係者評価アンケート・教職員自己評価 実数・回収率

		実数	回収率
学校関係者評価	保護者	462	約 55.8%
	児童	288	約 96.3%
	地域	26	
教職員自己評価	教職員	35	

0. 学校関係者評価アンケートの回収率について

昨年度同様、全家庭へ「学校関係者評価アンケート」のお知らせをすぐーると紙面の両方で配布するとともに、二次元コードや回答へのリンクを記載することで、その場で回答できるようにした。しかし、回答率は、前回より低下し、約 55.8%となった。次年度は、回収率を高めるために、紙面に二次元コードを引き続き掲載するとともに、「回答済み署名」の紙片を保護者から提出してもらうようにする。

1. 教育目標の達成状況に関する自己評価

教育目標

- (1) よく考える子ども (2) 思いやりのある子ども (3) 体をきたえる子ども

(1) 「よく考える子ども」の育成

・今年度の取り組み

探究的な学びの推進を中心に、課題発見・解決のプロセスを重視した授業改善を進めた。また、ICT 機器の効果的活用とアナログ活動の併用により、児童が自ら考えて答えを見付け、次の学びにつなげられるように授業改善を行った。

成果

・課題解決型学習の定着が進み、児童の主体的な発言や協働的な学びが増加した。「1-(2)先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中でとっている。【肯定的な回答 86.4%】」、「1-(4)授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。【94.7%】」といった回答結果から、児童が授業の意図や活動の目的を理解して学習に臨んでいることがわかる。

・ICT 活用の場面が拡大し、児童にとって分かりやすい授業を行うことができている。「1-(5)先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。【86.4%】」「1-(3)先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫して、分かりやすい授業をしている。【84.7%】」という回答結果から、ICT 機器とアナログの学習用具を目的に応じて使い分けながら授業を実施することで、学習効果のさらなる高まりを期待し、引き続きわかりやすい授業を計画していく。

課題

・児童の「他校種との交流授業」に対する肯定的回答と比べ、保護者との認識差が大きい。「6-(5)学校には、幼稚園や保育園、近くの小学校や中学校と交流する機会がある。【35.5%】」と肯定的回答の割合が低い結果となった。一方で保護者アンケートでは、「6-(4)本校では、近隣の幼稚園、小学校、中学校との連携や交流活動が

行われている。【69.8%】と肯定的な回答がおよそ2倍の差となった。キャリア教育のさらなる充実を図るとも、様々な場面で各教育施設と連携していることを児童に伝えていかなければならない。

(2)「思いやりのある子ども」の育成

・今年度の取り組み

Web Q-U を活用し、学級内の人間関係を可視化することで、児童同士の関係性を学年全体で把握し、支援につなげた。また、道徳科の学習状況を蓄積し「道徳ファイル」として、年に2回自宅に持ち帰らせ、保護者から児童へ対してコメントをもらうようにした。全ての教育活動において人権意識を継続的に育む指導を行った。

成果

・個性を大切にし、違いを認めることを大切にした安心感のある学級づくりを進めた結果、自分も他者も大切にしようとする思いをもつ児童が多かった。「7-(2)私は、自分らしさを大切にし、他の友達の良さを大事にしている。【89.9%】」と9割近い児童が肯定的な回答をした。

・児童、保護者、学校が目指す方向性を共有する機会が増え、信頼関係の構築が進展した。保護者アンケート「12-(4)本校児童は、自分らしさを大切にし、他者の良さを尊重している。【85%】」「12-(5)本校児童は、人を思いやり、クラスや友達のために何ができるかを考え、行動に移すことができている。【82.2%】」とどちらも8割以上の肯定的回答があった。併せて、「8-(1)本校は、保護者に学校の重点目標を伝えている。【91.8%】」「7-(2)本校では、学校日より、ホームページ、すぐーるなどで、保護者に情報を提供している。【95.9%】」と学校の指導方針を理解した上で、家庭教育に取り組んでもらえていることが分かる。

課題

・保護者の学校への関与が弱まっている可能性があり、学校外の大人との関わりを増やす必要がある。保護者アンケート「12-(10)私は、子供を見守る地域の一員として、普段から本校児童に声をかけている。【58.9%】」「9-(2)私は、学校行事、PTA 地域主催の行事などに進んで協力している。【65.7%】」といずれも70%を下回った。思いやりのある子どもを育成するためには、学校外の大人も含めた多様な他者との関わりが不可欠である。学校の友達、教員、または学校外の大人などがもつ様々な考えと触れる経験を積み重ね、思いやりのある子どものさらなる育成を推進していきたい。

(3)「体をきたえる子ども」の育成

・今年度の取り組み

健やかな身体の育成を重点方策に位置づけ、体育科の授業改善や体力向上を意識した特別活動、学校行事、特別授業などを計画、実施した。

成果

・児童アンケート「6-(6)私は、運動が好きだ。【75%】」と肯定的回答が高い割合だった。授業の中で体を動かす時間をできるだけ長く確保することで、児童一人ひとりが運動の楽しさを実感することができた。また、全校で行った長縄跳び大会や学年の仲間とともに取り組んだマラソン週間など、授業以外にも体力向上を意識した活動を積極的に取り入れたことでこの結果が出たと考察できる。

課題

・地域人材を活用し、運動の楽しさをさらに実感させたい。地域アンケート「2-(1)学校行事の内容は充実している。【100%】」「7-(3)私は、授業に協力できることがあったら、積極的に行う。【100%】」という結果からわかるように、地域の方々からは、本校の教育活動に高い関心を寄せていただけている。このような本校の特色を生かし、様々な運動分野で活躍する方の協力を得て、健やかな身体の育成をさらに進めていきたい。

・保護者アンケート「6-(6)お子さんは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。【74%】」と肯定的回答が高い割合であった。しかし、否定的意見も21.9%あり、学校外での生活の見直しを児童に図ったり、家庭に向

けた情報発信をし、家庭と連携しながら健やかな身体の育成を進めていかなければならない。

2. 重点目標の達成状況

(1) 学ぶ楽しさを知り、考えを深める力の育成

探究的な学びのプロセスを明確化し、単元・年間を通して循環させる授業改善を推進した。令和7年度は、1つの授業の振り返りをもとに、次の授業への問題や課題を児童たちで立てられるように指導や支援を行った。教師に示されやらされる問題ではなく、自分たちで立てた問いを自分たちで考え解決させることで、考えを深める力を高め、主体的な学習者へと成長させていくことができた。また、ICT活用とアナログ活動のバランスを意識し、どちらかに偏ったり、こだわったりしない授業が増え、児童の学びの質が向上した。

(2) 自分のよさを知り、未来を思い描く力の育成

キャリアパスポートの年間活用や、近隣教育施設との連携を強化し、児童が「今と未来の自分」をつなげて考える機会が増加した。キャリアパスポートを活用し、前学年や前学期の自分を振り返り、教員や保護者からのコメントを励みにしたり、自らの成長を実感できたりするようにした。また同じ学び舎である千歳中学校と連携し、6年生が中学校の授業体験を行った。進学への不安を取り除くとともに、未来への期待をもたせることができた。

(3) 思いやりの気持ちを育み、よりよい関係を築く力の育成

Web Q-U を活用した学級経営の改善により、児童同士の関係性の把握と支援が進んだ。学級全体の雰囲気把握できるとともに、一人ひとりの学級に対する関わり方が同時にわかるため、担任の学級経営の方略を具体的に検討することができ、暖かい雰囲気をもつ学級づくりの手助けとなった。また、「道徳ファイル」を作成することで、思いやりの気持ちをもつことやより良い人間関係を築くために必要な考え方を言語化して捉えることができた。

3. 総合評価と今後の改善方針

本校の教育活動は、教育目標と学校ビジョンに基づき、概ね計画的に推進されている。特に、探究的な学びの推進、自他を大切に作る心の教育、キャリア教育の充実などは確かな成果が見られた。一方で、保護者や地域の方々の学校教育への理解や協力はあるものの、関わりの希薄化や、児童・保護者の認識差など、学校と保護者、地域をつなぐ取り組みに課題が残る。今後は、以下の点を重点的に改善していく。

- ・通学路の安全対策など「知られていない取り組み」を重点的に可視化し、学校だよりなどで情報を発信していく。
- ・重要情報が埋もれないようにすぐーるの配信内容を精選する。配信の優先事項を吟味し、カテゴリ分けやタグ付けを活用していく。
- ・学級内 Teams を活用し、授業の様子や板書写真などを教員の負担、授業の妨げにならない範囲で行い、「日常の学びの共有」を試行、検討していく。
- ・保護者会や学校公開の「価値」を再度見直し、授業内容を工夫したり、参加の動機づけを行ったりする。
- ・地域人材の活用や地域行事との連携を強化し、地域との関係性を再構築する

以上の改善を通して、教育目標のさらなる達成と、児童一人ひとりの成長を実感できる学校づくりを推進していく。